祝谷大地ケ田遺跡４次調査 現地説明会資料

平成 25 年７月７日（日）
公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター

所 在 地：松山市祝谷四丁目 990 番地 1、六丁目 1027 番 5、1034 番の各一部、1027 番 6
調査面積：1,239㎡
調査期間：平成 25 年 4 月 25 日（木）～同年 7 月上旬（予定）
調査主体：公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター

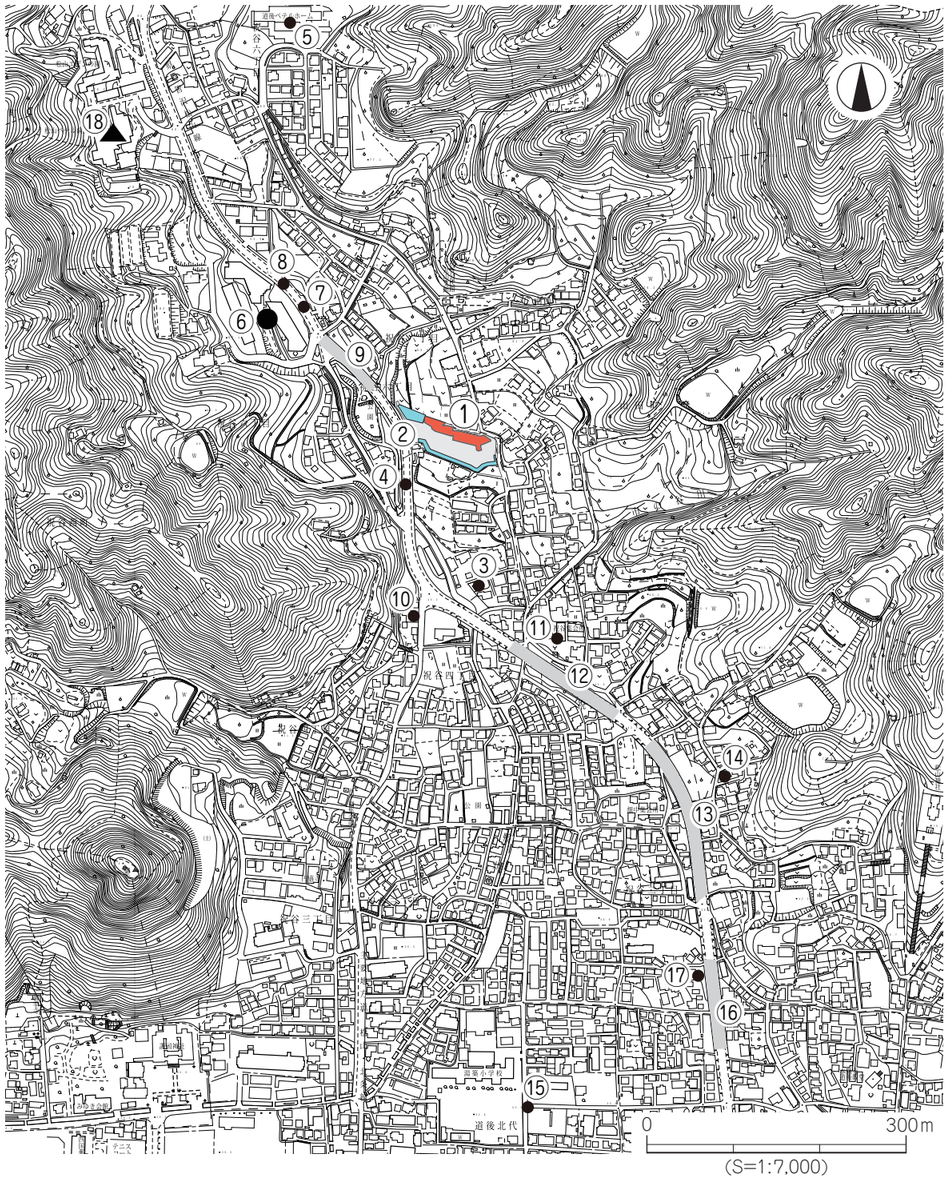
１．はじめに

今回の調査は、民間の開発に伴う事前の発掘調査です。昨年度の１２月から３月まで、祝谷大地ヶ田遺跡３次調査として発掘調査を行っておりましたが、今年度も引き続き隣接地において発掘調査を実施しました。先に実施いたしました祝谷大地ヶ田遺跡３次調査では、弥生時代中期中ごろの貯蔵穴約 40 基が密集した状態でみつかっており、また青銅鏡や象嵌のある大刀の飾り金具（柄頭）など豪華な副葬品をもった古墳（祝谷６号墳）がみつかっています。また、祝谷周辺では病院やマンションの建設、都市計画道路道後祝谷線の整備に伴う発掘調査などによって弥生時代を中心とする遺跡が多くみつかっています。

２．調査の概要

調査では、主に調査地の西側部分において、弥生時代中期の貯蔵穴が重なり合い、密集した状態でみつかりました。西側に隣接する祝谷大地ヶ田遺跡３次調査１区でも多くの貯蔵穴が確認されており、浅い谷状の地形をはさんでいますが、貯蔵穴の範囲が東側に広がっていることを確認することができました。

また、２基の横穴式石室がみつかっており、後世の開墾や開発行為によって古墳の大部分は失われておりましたが、それぞれ祝谷７号墳、祝谷８号墳と名づけました。７号墳に関しましては古墳の形は分かっておらず、横穴式石室の床面に敷かれていた玉砂利が残っているだけの状態でしたが、８号墳に関しては横穴式石室の遺体を埋葬する玄室部分が良好な状態でみつかっており、古墳の周りを円形に取り囲んでいたと考えられる溝（周溝）もみつかっています。



① 祝谷大地ケ田遺跡（4 次）
② 祝谷大地ケ田遺跡（3 次）
③ 祝谷大地ケ田遺跡（1 次）
④ 祝谷大地ケ田遺跡（2 次）
⑤ 祝谷アイリ遺跡
⑥ 祝谷六丁場遺跡（1 次）
⑦ 祝谷六丁場遺跡（2 次）
⑧ 祝谷丸山遺跡（1 次）
⑨ 祝谷丸山遺跡（2 次）
⑩ 祝谷西山遺跡
⑪ 祝谷本村遺跡（1 次）
⑫ 祝谷本村遺跡（2 次）
⑬ 祝谷畑中遺跡（1 次）
⑭ 祝谷畑中遺跡（2 次）
⑮ 土居窪遺跡（1 次）
⑯ 土居窪遺跡（2 次）
⑰ 土居窪Ⅲ遺跡
⑱ 祝谷 1 号墳～ 5 号墳

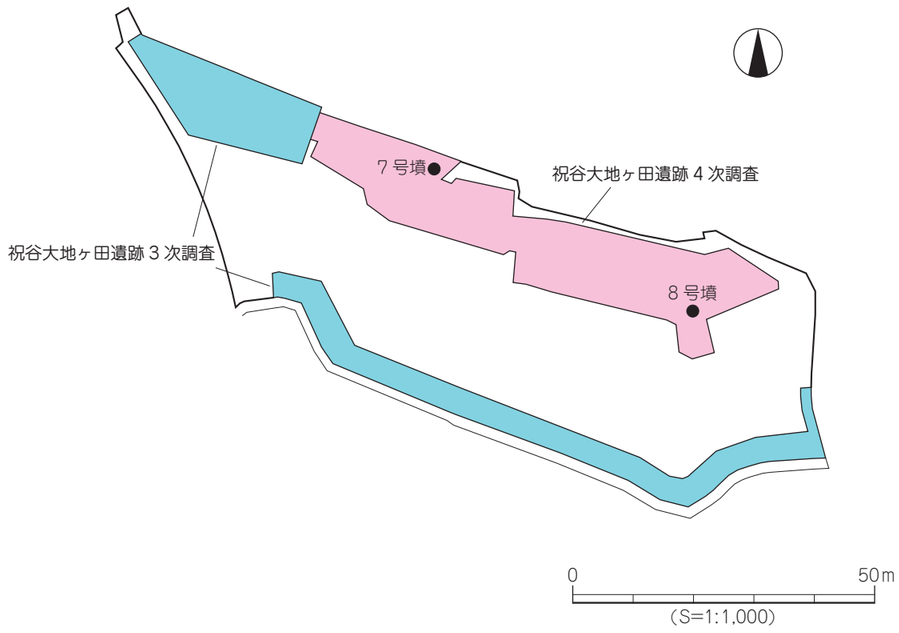
第 1 図　周辺遺跡分布図

３．わかったこと

前回の３次調査１区でみつかっていた貯蔵穴の範囲が、浅い谷状の地形をはさみ東側に広がっていることを確認することができました。

今回、直径が 1.5m 以上もある大型の円形貯蔵穴や、浅い方形の貯蔵穴、浅い溝状の貯蔵穴などを確認することができました。貯蔵穴の中からは、甕、壺、鉢など弥生土器の破片や管玉の破片、炭化種子（どんぐり、米、桃核と考えられるもの）、炭化材などが見つかっており、最終的にはごみ穴として利用され、人為的に埋め戻されたと考えられます。SK60 は、今回調査した貯蔵穴の中で最も大きく深いものです。直径約 1.8m の円形土坑で、深さは 1.2 ～ 1.5m、断面の形は穴の中間付近が上面よりも外側に大きく広がったような形（袋状）をしています。内部からは多くの炭化種子（どんぐり？）や土器の破片がみつかりました。

今回の調査では貯蔵穴は浅い谷状の土地にはつくられておらず、このことより日当たりの良い緩やかな傾斜地を選んで掘り込まれていたことがわかります。また、複数の貯蔵穴が重なり合った状態でみつかっていることから、古い穴を埋め戻し、地盤が安定した後に新しい穴を掘り込むなど、計画的に貯蔵穴の管理が行なわれていた可能性を考えることができます。



第２図　調査地測量図

調査地の西側でみつかった祝谷７号墳は、横穴式石室に使用されていたほとんどの石材が抜き取られ、玄室の床面がわずかに残っているのみでしたが、金銅装（こんどうそう）の馬具（ｆ字鏡板）や象嵌（ぞうがん）の入った刀の鍔（つば）、装飾付須恵器（子持壺）に飾りつけられていたと考えられる数多くの小像がみつかりました。昨年度に調査をおこなった祝谷６号墳の第２石室からも象嵌の入った刀の飾り金具が出土しており、象嵌の入った古墳時代の遺物は祝谷古墳群の中で２例目となります。また須恵器の小像には、人物や動物を表現したものがあり、馬に乗っている男性、琴をひく男性、頭に腕を置かれている男性、三角形のかぶりものをした男性、両手で何かを持っている女性、両手を上にあげた人物、鳥などがあり、このように当時の儀礼・伝承や情景を知ることのできる須恵器小像が複数出土することはとても珍しいことです。

調査地の東側でみつかった祝谷８号墳は、横穴式石室の玄室及び、古墳の周溝と考えられる溝（SD10）を確認することができました。玄室部は奥壁側の幅が 2.32m、長さが 4.86m もある大型の石室で、主に追葬（ついそう）段階（古墳に最初の人を埋葬する段階ではなく、それ以降に埋葬された段階）に伴う鉄器、須恵器、土師器、装飾品がみつかりました。玄室からの出土遺物に関しては、特に鉄器と装飾品が豊富に出土しており、現時点で判明している事としては、鉄製の大刀の中には意図的に折り曲げられたものや、石室内に立てかけられていたものがあります。また、ガラス玉など玉類に関しては 100 点を超える出土がみられ、その他豊富な鉄製品の保存処理が進むにつれて新たな発見が期待されます。古墳の周溝の可能性が考えられる SD10 に関しては、墳丘に立ち並べられていたであろう須恵器甕の破片などが出土しており、墳丘規模が 15m、周溝の外周部分を含めた古墳の規模は 30m 程度になるものと考えられます。

これらの他に、古墳時代の溝として SD8 がみつかりました。内部より埴輪や須恵器の破片が出土していることから、古墳の周溝である可能性が高いと考えられますが、現時点では残念ながら、この溝がどの古墳（石室）に伴うものであるのか確定することができておりません。

写真１
調査地遠景（南東より）

祝谷大地ヶ田遺跡４次調査

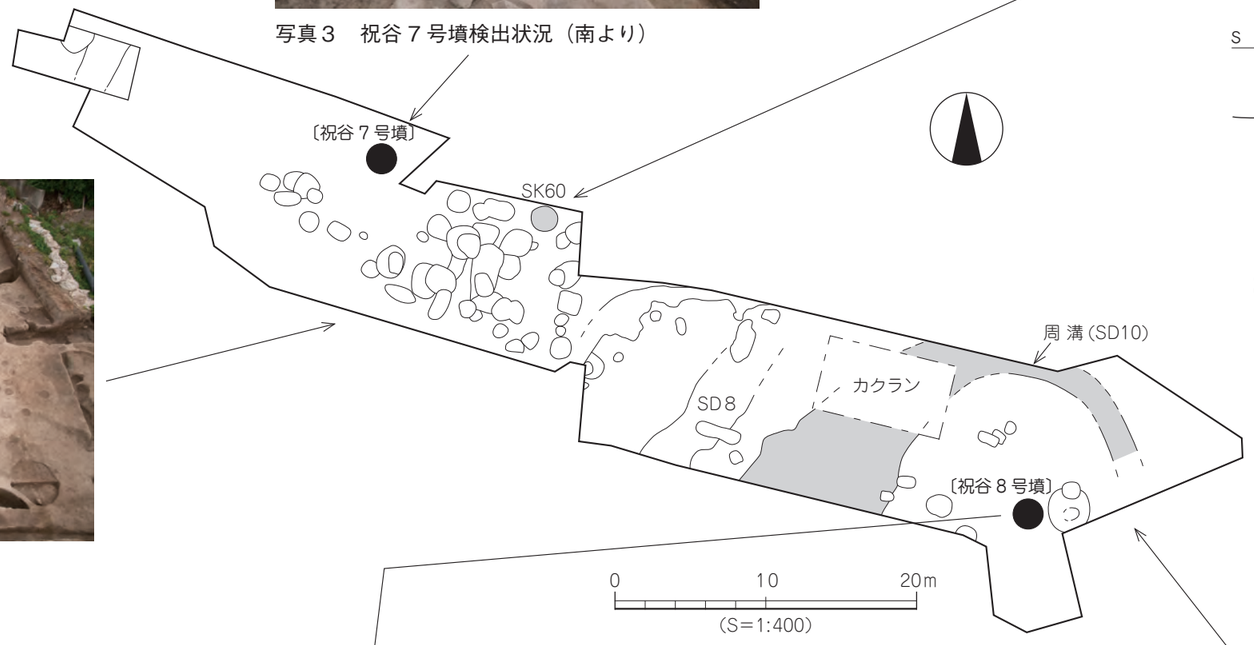
写真３　祝谷７号墳検出状況（南より）

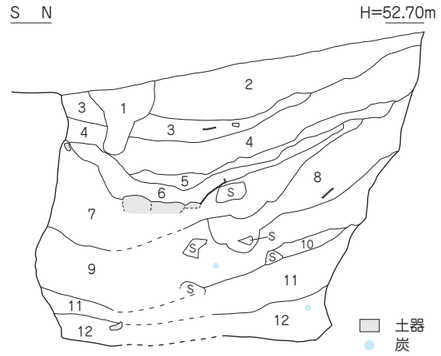
祝谷７号墳

・時　　期：6 世紀後半
・石室形態：横穴式石室
　全　長 不明
　玄室長 3.00 m ＋ α
　玄室幅 1.80 m ＋ α
　残存高 0.10 m

写真４　ＳＫ 60（東より）

写真２　西半部遺構検出状況（南より）





SK60 は、直径約 1.8m、深さ 1.2m ～ 1.5m の円形土坑で、土坑の上位～下位にかけて割れた土器や石器、炭化種子（どんぐり？）が出土しました。断面形態は部分的にフラスコ状（袋状）をしています。

【用語解説】

遺　構（いこう）：竪穴式住居や掘立柱建物など、過去の人類が残した不動産的なもの

遺　物（いぶつ）：土器や石器など、過去の人類が残した道具一般

土　坑（どこう）：地中に掘られた穴で、竪穴住居などの性格が明確なもの以外の遺構

土師器（はじき）：古墳時代から使用された弥生土器の系譜を引く素焼き土器

須恵器（すえき）：青く硬く焼き締まった土器で、古墳時代の中頃に朝鮮半島から伝わった焼成技術をもって焼かれた土器

写真５　祝谷８号墳検出状況（南より）

祝谷８号墳

・時　　期：6 世紀後半～ 7 世紀前半
・墳　　形：円墳
・規　　模：約 30 m
・周溝出土遺物：須恵器片・円筒埴輪片
・石室形態：横穴式石室
　全　長 不明
　玄室長 4.86 m
　玄室幅（奥壁）2.32 m
　　（入口）1.82 m
　残存高 0.60 m

写真６　東半部遺構検出状況（南より）

第３図　遺構配置図

祝谷７号墳出土遺物

須　恵　器：高坏、子持高坏、壺、器台、子持壺、坏、蓋

金 属 製 品：武器（鏃・刀・鍔・鞘口金具・刀の飾り金具）

馬具（鏡板片・革金具・被せ金具片・轡・辻金具・鞍橋・兵庫鎖）

農工具（刀子・鑿・斧）

装飾品（耳環）

鉄滓、不明鉄器

ガラス製品：玉

石　製　品：そろばん玉（水晶）　　計 約１２０点

写真７　副葬遺物出土状況

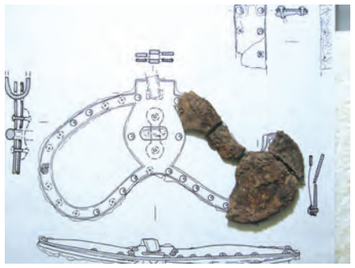


写真８　副葬遺物（ｆ字鏡板）

写真９　副葬遺物（鍔）

写真 10　副葬遺物（須恵器小像）

祝谷８号墳出土遺物

須　恵　器：高坏、長頸壺、台付鉢、提瓶

土　師　器：埦

金 属 製 品：武器（鏃・刀・刀片・鞘口金具）

馬具（轡・革金具・鞍）

農工具（刀子・鑿・斧）

装飾品（耳環）

鉄滓、不明鉄器

ガラス製品：玉

石　製　品：管玉・棗玉片（琥珀）　　計 約１１７点

写真 11　副葬遺物出土状況①（南東より）

写真 12　副葬遺物出土状況②（東より）

第４図　祝谷８号墳遺物出土状況図